

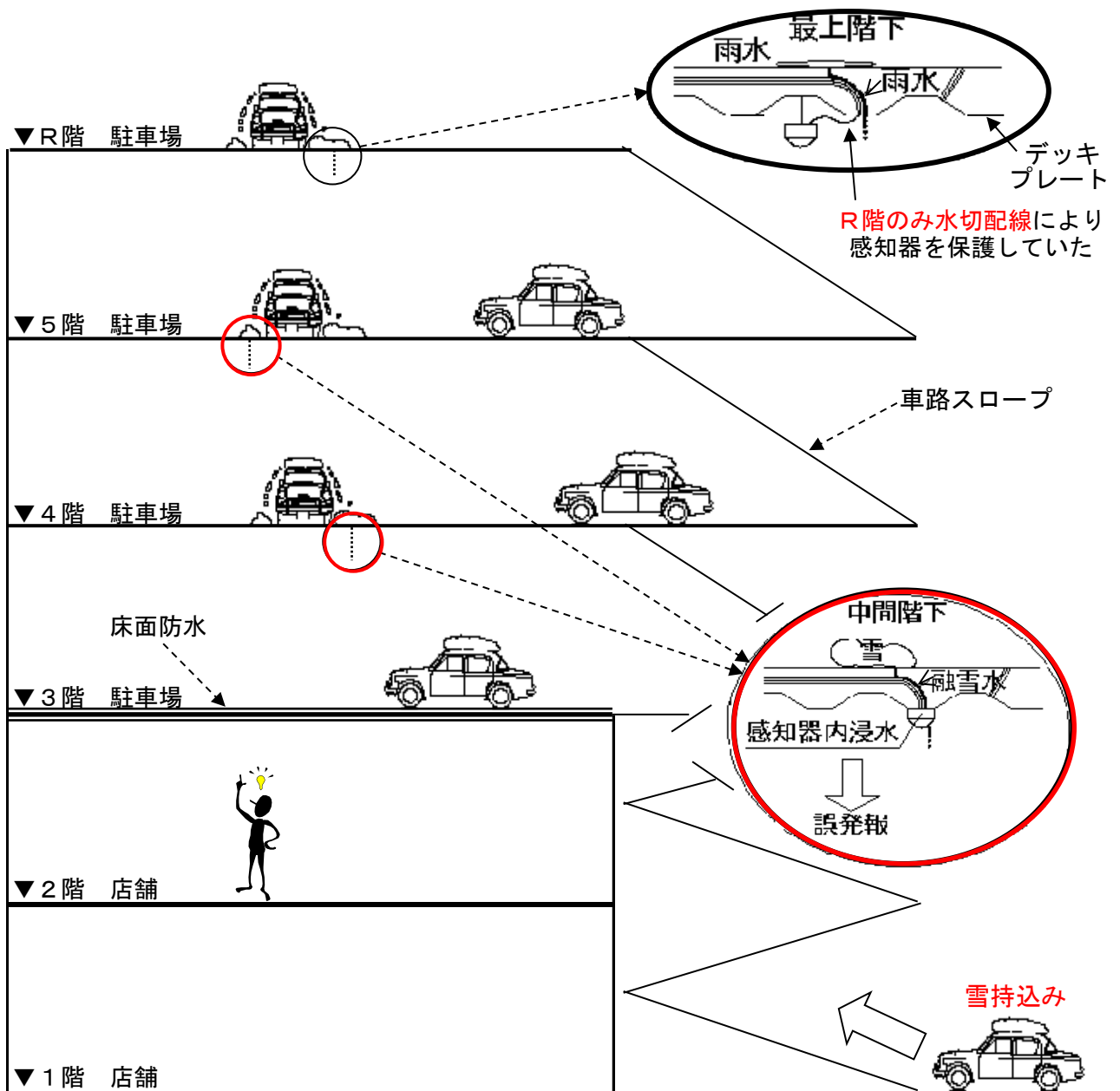
設備工事情報シート	電気	IV-E-6-改 <sub>1</sub>	制定	2007年4月1日
			改訂	2014年2月1日
アフタークレーム	積雪地域における中間デッキスラブ 火災報知器の誤報		漏電誤報	

1. 目的・概要

積雪の多い地域のショッピングセンターや遊戯施設等において、下階が店舗・上階がデッキスラブを使用した多層階の自走式の駐車場で、**雪の日**に**火災感知器の誤発報**が頻発したので、その原因と対策を紹介する。

2. 事象・原因

駐車場の最上階下においては、雨水による浸入を考慮し感知器に水切り配線を行っていたが**中間階**においては、浸水の可能性が低いと考え水切配線を行っていなかった。しかし、冬季の雪の日により持ちこまれた雪が、駐車場部分に落下、融雪により**水溜り**となり**下階に漏水**し、下階スラブ下に取り付けられていた**火災感知器に浸水**、**誤発報**が発生した。(図-1)



(図-1) 事象・原因

# 資 料

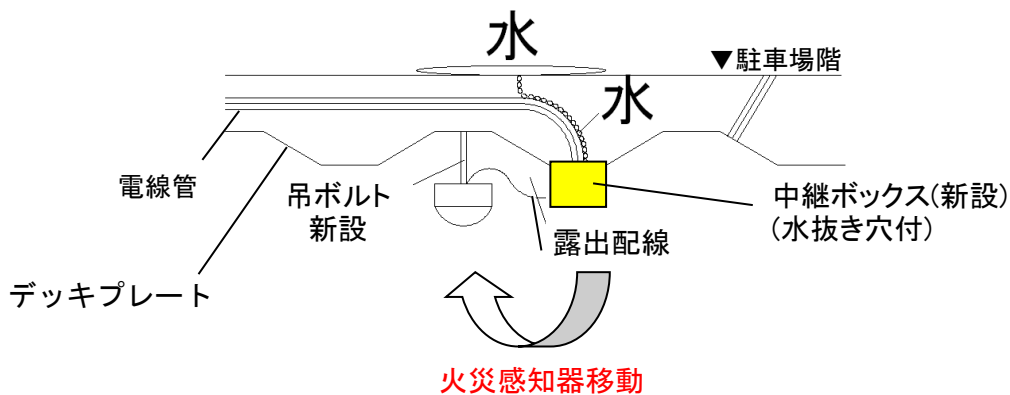
## 3. 処置方法

今回のクレームについては、当該感知器を一旦取り外し配管配線の引き出し部分に中継ボックスを設け、その直近に改めて支持ボルトを新設して感知器を固定、水切配線を行って接続し直した。  
(図-2)

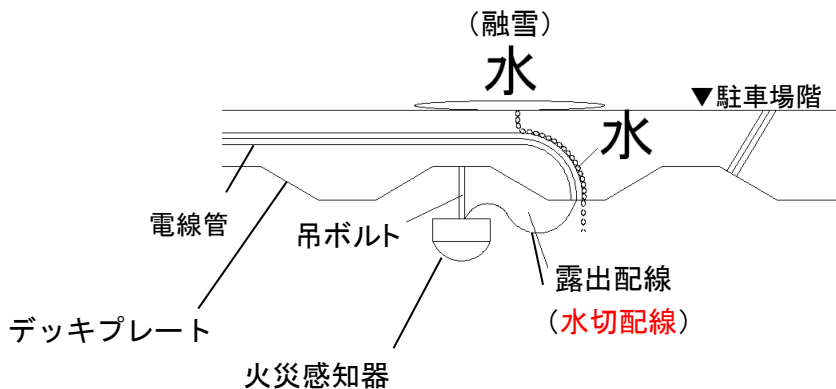
## 4. 今後の対策(ポイント)

駐車場階において、雨天時の車の持込水・外部よりの雨水吹込よりも、車による雪の持込による融雪水のほうがはるかに量が多い。また、駐車場階においては床面非防水の場合が多く、スラブ内へ進入した水は、打ち込み配管を伝って、感知器付近に落下する事が多いため、水切配線を行う等の漏水対策の検討が必要である。(図-3)

また、他の障害物(梁等の構造物・機器類・配管配線類)との取り合いや、防火区画の処理が可能であれば、出来る限り打ち込み配管・配線を避け、露出工事を行うことが望ましい。



(図-2) 処置方法



(図-3) 今後の対策